

インテリア装備（インテリア類型）

教 科	工業（建築インテリア）	単位数	3	学科・学年	建築インテリア科 3年(選択)
使用教科書	インテリア装備（電機大）				
副教材等	担当教員が配布するプリント				

「インテリア装備」はどんな科目？

インテリアの施工法については、建築の各構造に応じた仕上げ方法について、躯体・下地・仕上げの相互の関連で具体的に学びます。

維持保全とリフォームでは、建築物を時代と生活スタイルに合ったものに変える点について学びます。

建築設備では、まず室内環境の在り方について学習し、各種の設備・機器の種類、更に設備計画の進め方と施工の方法について学びます。

「インテリア装備」の学習の特徴は？

インテリア装備に関わる内容について、日常生活における具体例をあげ、また実物を見せながら授業展開します。

「インテリア装備」で大切なこと（留意点）は？

日頃、見過ごしがちな日常体験に目を向けることが大切です。

1. 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学 習 内 容 (単元名)	学 習 の ね ら い
1 学 期	4	第2章 インテリアの施工法	インテリアを構成する要素には、床・壁・天井などの部位がある。施工法は各構造から、躯体・下地・仕上げの関係で成り立っており、それぞれの施工法について、相互の関連から具体的に学習する。 材料については、構造材料・機能材料・仕上材料に分けられ、その生活空間を構成する材料の安全で耐久性のあることや、そこに生活する人々の生理的・心理的条件も満たすことが大切という点について学習する。
		1 施工の概要	
		2 床の下地と仕上げ	
	5	3 壁の下地と仕上げ ＜中間考査＞	
	6	4 造作	
		5 天井の下地と仕上げ ＜期末考査＞	
	7	6 開口部	
2 学 期	8	7 階段	
		8 施工管理 ＜中間考査＞	
	9		
	10	第4章 維持保全とリフォーム	
	1 維持保全	入念に構築された建築物でも、歳月の経過とともに劣化する、物理的耐久性の問題。社会的背景の変化や、化学技術の進歩により、現在の要求を不足する耐用性の問題。これら2点から建築物をニーズに合ったものに変化させる方法について学習する。	
	2 維持保全の方法		
11	3 住宅のリフォーム ＜期末考査＞		
12			
3 学 期	1	第6章 建築設備	空間をつくり出す構造体について、空間を快適で使いやすく、安全性の高い環境に維持するために必要となる設備について学習する。
		1 建築設備の概要	
	2	2 各種の設備と設備機器 ＜学年末考査＞	

2. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">・毎時間の授業に取り組む姿勢が意欲的である。・学習プリントや資料をしっかりとめられる。	<ul style="list-style-type: none">・授業準備・授業態度・授業ノート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・授業中の発言ができる。・質問に対する自発的な発言ができる。	<ul style="list-style-type: none">・授業態度・質疑応答・定期考査
技能	<ul style="list-style-type: none">・配布されたプリントがノートに整理され、役立てている。・図面や絵図、授業内容がしっかりとめられる。	<ul style="list-style-type: none">・授業態度・授業ノート
知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・疑問点など授業中に質問することができる。・インテリア装備の学習内容を正しく理解して、定期考査に臨むことができる。	<ul style="list-style-type: none">・質疑応答・授業ノート・定期考査

また、年間の評定は、1学期・2学期・3学期を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

3. 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

- ・普段の授業を真剣に取り組む、根気よく資料やノートをまとめ、自分にとって理解しやすいノートを作ってください。
- ・インテリア装備という専門科目を知識として理解するだけでなく、インテリア実習などの体験的学習に活用できることが大切です。